

名古屋市立大学病院

□ 主な連携施設

名古屋市立大学医学部皮膚科を研修基幹施設として旭ろうさい病院皮膚科、稲沢厚生病院皮膚科、岡崎市民病院皮膚科、海南病院皮膚科、春日井市民病院皮膚科、蒲郡市民病院皮膚科、中部国際医療センター（木沢記念病院）皮膚科、江南厚生病院皮膚科、国立研究開発法人国立長寿医療研究センター皮膚科、名古屋市立大学医学部附属西部医療センター皮膚科、聖霊病院皮膚科、日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院皮膚科、知多厚生病院皮膚科、名古屋市立大学医学部附属東部医療センター皮膚科、豊川市民病院皮膚科、東名古屋病院皮膚科の17カ所を研修連携施設として、また、あいち小児保健医療総合センター皮膚科、足助病院皮膚科、三重北医療センターいなべ総合病院皮膚科、三重北医療センター菟野病院皮膚科、犬山中央病院皮膚科、さくら総合病院皮膚疾患センター、松波総合病院皮膚科、名古屋市立大学医学部附属みどり市民病院皮膚科などを研修準連携施設として加えた研修施設群を統括する研修プログラムである。

病院長名	間瀬 光人
所在地	〒467-8602 愛知県名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1
交通案内	地下鉄：桜山駅下車3番出口 直結 市バス：「市立大学病院」または「市立大学病院」下車

□ 病院の特徴

当院は地域の中核医療機関として日々安全で開かれた医療を提供しています。2021年4月に東部・西部医療センターが名古屋市立大学医学部附属病院となり、2023年よりみどり市民病院（旧緑市民病院）とみらい光生病院（旧名古屋市厚生院附属病院）も附属病院となり、病床数約2,200床からなる全国最大級の大学病院群として、今後も地域の医療を担うとともに、高度先進医療・大規模臨床研究・優れた医療人の育成が可能です

□ 研修プログラムの特徴

様々な疾患の確定診断から治療方針の決定にいたるまですべてを経験し、さらに大学外の皮膚科（準）連携施設（病院）で4～5年の研修を積み、一流の皮膚科スペシャリストをめざします。皮膚科（専攻医）5～6年目に皮膚科専門医の修得（当教室の合格率95%）を目標とします。

病棟（23床）は、2つのチーム（Aチーム：腫瘍・感染症、Bチーム：炎症性疾患・皮膚リンパ腫）に分かれて、専門性の高い医療を提供しています。複数名での主治医制を取ることで、午前から病棟業務を行い、チーム回診→部長・副部長回診、カンファレンスで、診療レベルの向上を目指し、同時に負担軽減をあわせて行うような体制を取っています。

本プログラムは各研修施設の特徴を生かした複数の研修コースを設定している。26名の指導医が指導にあたる充実したプログラムです。

定員6名であり、人数を比較的少なくすることで、指導体制を確実なものとして、しっかりした研修ができるようにしています。

詳細は名古屋市立大学大学院医学研究科 加齢・環境皮膚科学 HP を参照 <https://nagoya-cu-dermatology.jp/>

□ メッセージ

皮膚科 部長 森田 明理

優れた臨床医となり、一流の皮膚科スペシャリストへ！

皮膚科のプログラムでは、全国でも有数の病床数（23床）をもつ名古屋市立大学病院を中心に、10数カ所の県内中核病院と連携。地域的な特色のある研修ができるように準連携施設も多数設置を予定しています。診療の幅は非常に広く、乾癬をはじめアトピー性皮膚炎などのアレルギー疾患、白斑などの難治性疾患、手術を必要とする皮膚悪性腫瘍、難治性潰瘍など、県内外から多くの患者さんが来院しています。また褥瘡回診や、膠原病内科との連携による膠原病・リウマチ性疾患の診療といった豊富な経験を積むことが可能。皮膚科疾患に関することはすべて対応できる体制を整えています。



□ 募集要項

・採用予定人数	6人
・給与/月額	228,000円～478,000円 (勤務・外勤の状況により異なる)
・当直回数/月	3～4回
・当直料/回	24,000円～34,000円
・その他	年間有給休暇 20日間、通勤手当、協会けんぽ、厚生年金保険、雇用保険、労災保険等あり
・応募連絡先	担当者 加齢・環境皮膚科学 秘書 電話番号 052-853-8261 Eメール hihuka@med.nagoya-cu.ac.jp

